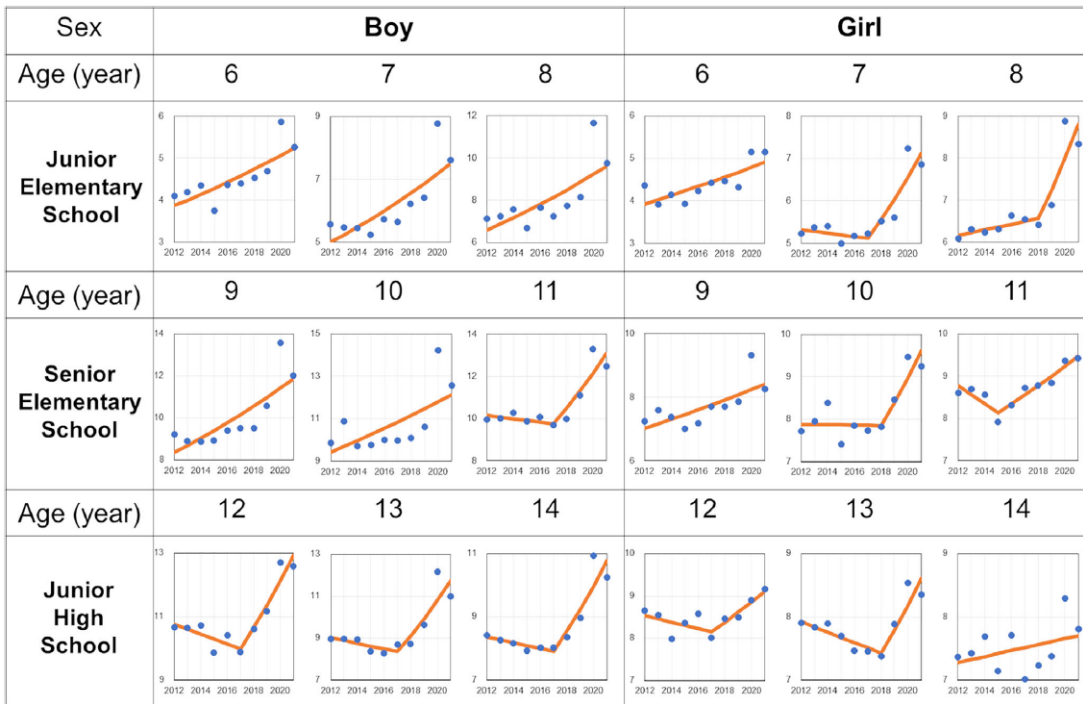


## コロナ禍を含めた小児肥満有病率の変化について：小児肥満トレンド解析

- 日本の小児肥満有病率は、2000年初頭以降、低下傾向にあるとされています。
- コロナ禍を含む2012年～2021年の10年間に於いて、小児（6-14歳、男女別）の肥満有病率のトレンドを解析しました。



● observed — trend

- コロナ禍で生活様式の変化が起こったとされる2019-2020年において、すべての年齢・性別群で肥満有病率の増加を認めた。
- 一方で、肥満有病率の増加傾向はコロナ禍以前から始まっていた。
- 特に男子の11-14歳、女子の多く（7-13歳）の年齢で、2015年周辺から急激に増加に転じていた。

**小児肥満有病率は2010年代以降、再度増加傾向にある。  
コロナ禍での生活様式の変化はその増加を加速させた可能性がある。**